

2009/07/11 (於：大阪市立大学文化交流センター)

持続可能な文化アーカイブ研究会 (SAmC研)

「ポピュラーカルチャーのミュージアム化・・・マンガ関連施設の事例より」

増田のぞみ (花園大学文学部創造表現学科)

1、ポピュラーカルチャーのミュージアム化

1-1、4つのメタファーによるミュージアムの分類

⇒スーザン・A・クレイン編著『ミュージアムと記憶----知識の集積／展示の構造学』

(伊藤博明監訳)、ありな書房、2009年、

⇒伊藤博明による「解題・ミュージアム(論)の彼岸」pp.343-345より

☆ジャネット・マースティンによれば・・・

「聖堂」(Shrine)

「市場原理の産業」(Market-driven industry)

「植民地化する空間」(Colonizing space)

「ポスト・ミュージアム」(Post-museum)

1-2、「ポスト・ミュージアム」とは？

⇒アイリーン・フーパー＝グリーンヒル(レスター大学)はこの言葉を「完全に再創出された制度／組織を示唆するもの」として用いている。

「それはもはや「ミュージアム」と言うべきものではなく、まったく新しい、しかし「ミュージアムと関連するもの」である。ポスト・ミュージアムは、自らの責務、戦略、意思決定のプロセスを明確化し、不断にそれらを、表象／再現の政治学が要求する仕方で評価し判断する。このミュージアムのスタッフはニュートラルな存在ではなく、当のプロセスに積極的に寄与する者と規定される。そこでは、自らが貢献するコミュニティと協力しあうことを求められ、訪問者は受動的な消費者ではなくその構成員となる。ポストミュージアムは知識を不特定多数の聴衆に伝達するかわりに、自らが耳を傾けて応答し、さまざまなグループがミュージアムにかかわる論議に参加するように促す。このミュージアムは困難な問題に尻込みすることなく、衝突と矛盾を、多義性と揺れ動くアイデンティティを提示する。さらに重要な点は、このミュージアムが社会的観点からの文化的理解を深めさせ、社会的な不公平を是正する契機となる場であるということである。それは、コロンビア大学のアンドレアス・ヒューイセンが期待するミュージアム、すなわち、「この世界の諸文化を、それらの異質性を衝突させて表示し、たとえ不調和であってもネットワーク化し、異種交配し、そして観者の視線と記憶の中で共生させるための空間」である。」

2、日本におけるマンガ関連施設・・・最近の動向より

2-1、難航する2つの事例

A：国立メディア芸術総合センター(仮称)

B：大阪府立国際児童文学館

A : 国立メディア芸術総合センター (仮称)

■ 「メディア芸術の国際的な拠点の整備について

(「国立メディア芸術総合センター (仮称)」構想について) (文化庁HPより)

☆資料 : 「ソフトパワーとしてのメディア芸術 現状と課題」国立メディア芸術総合センター (仮称) 設立準備委員会 (第1回) 参考資料 (2009年7月2日)

☆資料 : 「メディア芸術の国際的な拠点の整備について (報告)」「概要」および「報告書」

・「メディア芸術」とは、平成13年(2001年)12月施行の文化芸術振興基本法第9条において「映画、漫画、アニメーション及びコンピュータその他の電子機器等を利用した芸術」と定義され、国は、その振興を図るため、必要な施策を講ずるものとされている。

・「メディア芸術拠点を整備することにより期待される効果」

= 「文化の振興」「観光の振興」「産業の振興」(「報告書」より)

◆ 難航する計画

⇒ 「メディア芸術」概念のあいまいさ

* この「メディア芸術」の定義は「ほぼ日本独自とっていい法的なカテゴリ」

(☆資料 : 小田切博「キャラクターのランドスケープ」

「国立メディア芸術総合センター」に関する混乱」2009年6月23日)

⇒ 中身の見えない「ハコモノ」との批判

⇒ 「麻生」カラーの強さ

⇒ 民主党による批判

⇒ 自民党内部からの反対意見

⇒ マスコミによる報道の偏り

* 「アニメの殿堂」「国営マンガ喫茶」との揶揄、「報道ステーション」の例など

☆資料 : 産経ニュース【日本の議論】「建設費なんと117億円「アニメの殿堂」は必要か？

衆院選の結果次第では…」(2009.6.28 18:00)

⇒ 理解されない主旨・・・世論の傾き

☆資料 : 関西学院大学「社会表象特論C」授業内のアンケート

⇒ 文化庁HPに掲載されたQ&A

《よくいただくご質問》 国立メディア芸術総合センターとは？

Q. マンガ喫茶とどう違うの？

→メディア芸術の「美術館」です。一般に市販されている様々なマンガをただ単に収集して、利用者が読めるようにする施設ではありません。センターでは、マンガだけではなく、アニメーション、CGアート、ゲームなどメディア芸術全般を対象に、(1)優れた作品の展示や、(2)収集・保管してアーカイブ化、(3)メディア芸術の歴史、最先端の動向等についての調査研究、(4)我が国の将来を担うクリエイターの

育成を図るとともに、(5) 国内各地にある関連施設と連携して、それらの中での中核的な機能を果たします。(※注【CG アートとは?】「CG」とはコンピュータ・グラフィックスのことで、コンピュータを使って作った美術のことです。)

Q. 無駄遣いでは?

→芸術鑑賞機会の拡充であると同時に、国際的地位の向上と産業育成を目指す未来への投資です。我が国のマンガ、アニメ、CG アート、ゲーム等のソフトパワーは世界で高く評価されています。本格的な発信拠点の設置は、文化振興のみならず、国際的な地位向上やコンテンツ産業の育成を図り、我が国の成長力を強化する未来への投資です。(※注【コンテンツ産業】日本のコンテンツ産業の市場規模は 14 兆円、世界全体では 150 兆円とされ、コンテンツ産業の GDP に占める割合は、日本では 2.2%、世界では 3.2% (米国では 5.1%) となっています。)

⇒軌道修正の必要性

☆記事：「「アニメの殿堂」、文化庁が軌道修正 新築こだわらず」(2009 年 7 月 3 日)

「建設をめぐる賛否が渦巻くアニメやマンガの「殿堂」、国立メディア芸術総合センター(仮称)の第 1 回設立準備委員会が 2 日、文化庁で開かれた。同庁は、当初案に盛り込んだお台場への立地や新築にこだわらず、事業委託の形で運営の一部に国費を回すなど、センターのあり方について実質的に軌道修正。幅広い議論を呼びかけた。

マンガ、アニメ、ゲーム、メディアアートの専門家らが出席。青木保長官は冒頭で「(既存の建物の)改装も含めて考えたい」と述べ、お台場への立地も含め、新築にこだわらない考えを示した。委員からは「既存の美術館との合築も考えては」との意見も出た。

運営費も、これまでは「国費は使わず自己収入で」という方針だったため、「ハコだけで中身がなくなる」との批判を招いたが、高塩至次長は「メディア芸術祭を含む大規模な展覧会や調査研究、人材育成などには国が事業委託したい」と述べ、運営費の一部に国費を回す考えを示した。ただ、作品の多くを寄贈・寄託で集め、研究員はボランティア的な「客員研究員」を想定するなど、運営にはまだ不透明な点が多い。

委員会は今月中にセンターの基本計画をまとめ、8～9月に建設地を含む事業プランを公募、10月に決める。運営団体の公募は秋以降。11年度のオープンを目指す。(小川雪) (asahi.com)

B：大阪府立国際児童文学館

⇒2009 年 3 月に廃止案が可決され、2009 年度中に府立中央図書館に移転される予定。

☆記事：「児童文学館廃止案を可決——大阪府議会」(日経新聞 2009/03/24 配信)

「大阪府の橋下徹知事が廃止・移転を打ち出している国際児童文学館(同府吹田市)を巡り、府議会は 24 日、同館の廃止に関する議案を可決した。所蔵されている児童書などは 2009 年度中に府立中央図書館(東大阪市)に移転される予定。廃止の議案は自民、公明が賛成。「引き続き資料を収集、活用する」「機能を引き継ぐ」などとする付帯決議も可決した。民主は昨年 10 月に同館の存続を求める請願を全会一致で採択したことを重視、共産とともに反対した。」

⇒児童文学館の問題は「橋下改革」に関わる議題の一つとされ、廃止・移転の決定が「改革」の成果とされる

⇒移転は経費削減につながるのか？という疑問

☆2009年6月30日放送「橋下改革の“根拠”揺るがず資料とは…」

(読売テレビ「かんさい情報ネット Ten!」) <http://www.ytv.co.jp/ten/sp/index.html>

「高い支持率をバックに突き進む橋下改革。知事就任からまもなく1年半、その足元を揺るがしかねない内部資料を独自入手しました。そこからわかった事実は、橋下改革の危うい一面でした。」

「移転のメリットとして、『移転後10年間で総額4億6000万円の経費削減が見込める』と説明されていた」「しかし、府立中央図書館の書庫の収蔵能力が、児文館の収蔵資料70万点を受け入れた場合、移転統合後9年、早くも4～5年もたないという府教委作成の資料が見つかり、その場合、書庫増改築費として約10億円の追加経費が見込まれる」「また、現施設の運営にあたり、国からの助成金2500万円を受けているが、移転した場合、それを返却する必要も生じる」

問題点と課題

⇒政治の問題、政治的な対立として論点が変化していく

⇒政策決定に関わる「人」や政治的な状況の変化に左右される問題となっている

⇒世論(国民、府民)の理解を得ることの難しさ

⇒だれのためのミュージアム/アーカイブなのか？なぜ必要なのか？

⇒研究者や愛好家にとってではなく、一般市民にとってどんな利益があるのか？

⇒なぜ必要なのかという「理由」や「説明」が求められる

⇒説得力の乏しさ・・・「サブカルチャー」としてのマンガ、

「たかがマンガ」という「マンガ」をめぐる問題

2-2、私立大学による新たな取り組み

C: 明治大学「米澤嘉博記念図書館----まんがとサブカルチャー」(公式HPより)

施設機能: 専門図書館(まんが・サブカルチャー)

館所在地: 東京都千代田区猿樂町

建築規模: 地上7階(1F展示室、2F閲覧室、3～5F閉架式書庫)

床面積: 約810㎡

所蔵蔵書: まんが雑誌・単行本、同人誌、サブカルチャー(SF・アニメ・映画・音楽等)雑誌・関連書、カストリ雑誌、他

故・米澤嘉博氏蔵書4,137箱、故・岩田次夫氏蔵書403箱、他・・・推計十数万冊

「明治大学では、マンガ・アニメ・ゲームの複合的なアーカイブ施設となる「東京国際マンガ図書館」(仮称)を準備しており、2008年より学内にマンガ図書館準備委員会を設けて計画を進めています。その計画の第一歩となる先行施設として、本学が輩出したマンガ評論家である故・米沢嘉博氏が遺された膨大な蔵書により、「米沢嘉博記念図書館」を開設します。」

⇒私立大学の個性をアピールするための戦略の一部

例: 京都国際マンガミュージアム(京都精華大学)という「成功例」

- ⇒京都市（教育委員会）による土地の提供・・・廃校になった校舎の改築
- ⇒地元自治会との協力

2-3、個人によるアーカイブ

■「現代まんが図書館」（東京都新宿区）

- ⇒マンガ専門の私設図書館、現代まで雑誌や単行本など幅広く収集
- ⇒貸本がとくに充実している
- ⇒館長の内記稔夫氏が 50 年以上にわたり収集したマンガ本、十数万冊
- ⇒1978 年より現代まんが図書館〈内記コレクション〉を設立
- ⇒1997 年には朝日新聞社主催の第 1 回手塚治虫文化賞特別賞を受賞

■「昭和漫画館青虫」（福島県南会津郡只見町）

⇒「青虫は、昭和の懐かしい漫画本専門の私設漫画館です。高野行央館長が、30 年以上かけて集めている貴重・稀覯な昭和 20 年代後半から 40 年代前半の貸本マンガ本を中心とし、終戦直後の赤本漫画から昭和 60 年頃までの絶版マンガ本を、約 1 万 5 千冊揃え、公開・展示しています。

貸本漫画や絶版漫画本を、書庫に本が隠されて見えない閉架式ではなく、直に見渡しながら手にとって読める開架式にこだわって公開している、日本一の漫画館です。」（HP より）

- ⇒開架式へのこだわり
- ⇒開館時期は 5 月～10 月（冬期は雪が深いため閉館）

■「少女まんが館」（東京都西多摩区）

- ⇒2002 年開設の私設図書館、「少女まんが専門の滞在型図書館」
- ⇒「開館日・・・毎週木曜日など」
- ⇒蔵書は寄贈として受け付けている
- ⇒館長は大井夏代さん

◇資本家ではない一般市民によるコレクションとその公開の可能性

- *しかし運営に関しては、とくに資金面で問題を抱える
- *一代限りで散逸する可能性も高く、個人での運営には限界がある

◇移転された個人コレクションの例

- ・清水勲氏による日本漫画資料館〈清水コレクション〉
→一部が京都国際マンガミュージアム（京都精華大学）へ
- ・米澤氏のコレクション→明治大学へ
- ・村崎修三氏のコレクション→菊陽町図書館へ（少女雑誌データベースの作成など）

3、考察

以上の事例からは・・・

⇒私立大学による施設の設立や個人収集家によるコレクションの公開などにも一定の可能性は見出せる

*しかし課題も多い

- ・資金面での問題
- ・網羅的な資料の収集・保存が困難

⇒やはり国や行政による取り組みも必要となる

⇒そこで欠かせないのが「自らの責務、戦略、意思決定のプロセスの明確化」

⇒「ミュージアムに関わる論議」に積極的に参加していくこと

「ポスト・ミュージアムは、自らの責務、戦略、意思決定のプロセスを明確化し、 不断にそれらを、表象／再現の政治学が要求する仕方で評価し判断する。このミュージアムのスタッフはニュートラルな存在ではなく、当のプロセスに積極的に寄与する者と規定される。そこでは、自らが貢献するコミュニティと協力しあうことを求められ、訪問者は受動的な消費者ではなくその構成者となる。ポストミュージアムは知識を不特定多数の聴衆に伝達するかわりに、自らが耳を傾けて応答し、さまざまなグループがミュージアムにかかわる論議に参加するように促す。このミュージアムは困難な問題に尻込みすることなく、衝突と矛盾を、多義性と揺れ動くアイデンティティを提示する。」

⇒国民、市民の理解を得ることの難しさ

⇒だれのためのミュージアム／アーカイブなのか？

⇒キーワード「参加するミュージアム」、「訪問者にとってのミュージアム」